

公成建設株式会社 VOL.454

安全衛生ニュース

発行
公成建設(株)安全衛生
協力会事務局
編集
安全衛生委員会
事務局

◆建築工事の安全についてー

ー最近の事故事例から学ぶ教訓と対策◆

執行役員 総務部長 木本 泰弘

建築業界における安全管理は、長年の技術革新や法規制の強化により着実に進化を遂げてきました。しかし、現在も建設業は、全産業の中で『労働災害による死亡者数』が最も多い深刻な状況にあります。尊い命を守り、安全な現場を維持するためには、最近発生した具体的な事故事例からその本質的な原因を学び、日々の管理に反映させることが不可欠です。



近年における重大事故の傾向を振り返ると、依然として「三大災害」と呼ばれる『墜落・転落、建設機械との接触、崩壊・倒壊』が大きな割合を占めています。

特に発生頻度が高く、命に直結するのが墜落・転落事故です。最近の事例では、ビルの建築現場において、エレベーターシャフトや床の開口部から作業員が数メートル下に転落して死亡する災害が相次いでいます。これらは「一瞬の不注意」として片付けられがちですが、根本的な原因は、開口部への安全ネットや手すりの設置不良、あるいは作業員のフルハーネス型安全帯の未着用といった「不安全状態」と「不安全行動」の重なりにあります。法改正により高さ2メートル以上の作業床がない場所では、フルハーネスの着用が原則義務化され、足場点検の規則も強化されましたが、現場における末端までのルール遵守がまだ形骸化している側面を浮き彫りにしています。

また、重機や建設機械による「はさみ込み」や「激突」の事故も後を絶ちません。移動式クレーンやバックホウが傾斜地でバランスを崩して横転し、下敷きになった作業員が死亡する事例や、旋回する重機の死角に入り込んだ作業員が激突される事案が発生しています。重機作業においては、事前に地質や地形の調査を徹底すること、そして何よりも重機の稼働範囲内への立ち入り禁止措置

置と、専任の誘導員の配置という基本動作の徹底が命を分けます。

さらに、近年増加しているのが「予期せぬ環境リスク」による事故です。屋内解体工事中に換気対策を怠ったことでガソリン発電機から一酸化炭素（CO）が充満し、作業員が相次いで中毒搬送された事例などが挙げられます。また、夏季の猛暑による熱中症リスクも、今や重大な労働災害として位置づけられています。

これらの事故事例が私たちに示している教訓は、「特別な対策」を講じるのではなく、「決められた作業手順や基本マニュアルを忠実に守る」という原点回帰の重要性です。事故の多くは、慣れによる油断や、工期を優先する焦りから手順を省略した瞬間に起きています。

これからの現場に求められるのは、作業前の危険予知（KY）活動を形骸化させず、一人ひとりが当事者意識を持って危険を「見える化」することです。また、事業所のトップや現場代理人が率先して現場をパトロールし、安全衛生管理体制が機能しているかを常に確認する姿勢が欠かせません。

「安全はすべてに優先する」という言葉を単なるスローガンに終わらせず、日々の地道な点検とルール遵守の積み重ねによって、労働災害ゼロの安心できる職場を築いていかなければなりません。

以上

10 月度合同パトロール

10月8日(木)13:00 より

協力会：木下吉工業(株)、日本電機材料(株)

安衛委員：木本・匹田・稲垣・寺田・松永

以上7名で実施しました。

『寸評』 安全衛生委員会

10月度の合同パトロールは、建築現場、「久御山町全世代・全員活躍まちづくりセンター建築工事」を、安全協力会2名、安全衛生委員会5名の計7名で実施しました。

当日は、秋晴れの中、『墜落転落災害の防止、重機災害の防止』を主眼に、安全パトロールを行いました。

◆ 久御山町全世代・全員活躍まちづくり

センター建築工事

当工事は、今回で5回目の合同パトロールです。

渡辺所長より進捗状況、当日の作業内容の説明を受け、重点目標の「墜落転落災害の防止、重機災害の防止」を主眼に安全点検を行いました。当日の作業は、内装、外構他で職員14名を含め72名でした。

工事場所：久世郡久御山町島田ミスノ38番地

工 期：令和6年3月14日～8年12月28日（33ヶ月）

発 注 者：久御山町

建物用途：集会所 鉄骨造 地上2階建て

主な外部仕上げ：

勾配屋根	ガルバリウム鋼板(タテハゼ葺き)
陸屋根	超速硬化ウレタン複合防水
軒 裏	LGS下地 杉軒天井パネル 木材保護塗装塗布
外 壁	カラーガルバリウム鋼板 フェノールフォーム複合高圧木毛 セメント板

出 来 高：79.0% （9/30現在）

安全成績：労働延人数=119,096人

休業災害1件・不労災害0件。（10/7現在）

＜良好な事項＞

- ① 各所整理整頓
- ② 有機溶剤の明示、保管場所
- ③ 保護具着用管理責任者、化学物質管理者の掲示

＜改善・点検を要する事項＞

- ① 足場ベース金具の固定
- ② 足場開口部の養生
- ③ 地上配線の明示・養生

■講評では、ホール、各部屋、外構と完成に近づき、整理整頓もよくなりましたが、日々の片付け、安全通路の確保を心掛け、工事終盤での休日作業も出てきますので、健康管理に留意するようお願いしました。

■渡辺所長からは、「残り工期3ヵ月弱となり、大変厳しい工程となっております、土日、夜間の稼働を余儀なくしなければなりません、交代で休みを取り乗り切りたいと思います。」とのコメントでした。



【久御山町全世代・全員活躍まちづくり
センター建築工事】

重点実施例

『新名神高速道路城陽第一高架橋(下部工)拡幅工事』 土木部 土木G 工事主任補 沖田 雄伍

本工事は、新名神高速道路6車線化による城陽第一高架橋下部工の拡幅工事となっております。工事内容としましては、城陽第一高架橋下部工の6基拡幅、城陽JCT内の盛土工、城陽高架橋下の調整池工となっております。

私は今年の4月から現場に配属され、城陽第一高架橋下部工のP5、P6橋脚の担当をしております。現在P5、P6橋脚における施工では主に、ラフタークレーンを使用して鉄筋の組立、型枠の組立、足場の組立を行っております。その際注意している点は、クレーンの立ち入り禁止措置・吊り荷直下の人払いの徹底・玉掛け合図の確認の徹底を朝礼、KY活動時に作業員全員に周知させ、事故防止を図っております。引き続きラフタークレーンを使用した作業がありますので上記と同様にしっかりと安全対策を講じていきます。またこれから、バックホウを使った埋戻し等がありますので、重機と作業員の接触防止措置を行い、安全に取り組んでいきます。長い工期になりますが、安全管理を徹底して作業を終えたいと思います。ご安全に。



【新名神高速道路城陽第一高架橋(下部工)拡幅工事】

現 場 ニュース

『久御山町全世代・全員活躍

まちづくりセンター建築工事』

建築部 建築G 工事所長 寛 瑛子

久御山町全世代・全員活躍まちづくりセンター（愛称：グランハット）は、旧中央公民館跡地（久御山町役場敷地内）に建設中の複合施設です。約 300 席のホールや活動室を備え、赤ちゃんから高齢者まで世代を超えて集える町の新たなシンボルとして、2026 年 12 月末の竣工を目指して工事を進めています。

工事は 2024 年 3 月より着工しましたが、基準値を超える汚染土の検出による追加工事・工期延長から始まり、柱の少ない吹き抜け空間を実現するための複雑な鉄骨や難解な意匠、設備機器・配管・配線スペースの不足等の様々な問題や困難にぶつかってきました。そんな現場も、残すところあと 2 カ月で竣工を迎えます。施設のメインであるホールの施工がクリティカルとなり、最後まで非常に厳しい工程ですが、なんとか竣工に間に合うよう、社員も作業員の皆さんも一丸となり協議を重ねながら前に進めています。

鉄骨建方で屋根がぐるっと一周周って接続された時、長さも角度も一つひとつ違う木ブレスが綺麗に納まった時、節々で大変な苦労と今までにない感動を味わった建物でした。

無事に竣工を迎えられるよう最後まで気を引き締めて作業にあたります。 ご安全に！！



【久御山町全世代・全員活躍

まちづくりセンター建築工事』

安 衛 コ ラ ム

『定点観測』

総務部 総務G 課長 藤井 崇

日々生活していると目に見えない疲れを感じる場合があります。どれだけ疲れているのか？と、自分の感覚が頼りになりますが、数字で見るとわかりやすいです。例えば、毎年受けている健康診断。その数値を見て、昨年より良くなった、悪くなった。このままでいいんだ、気をつけないといけないと感じます。

しかし、健康診断の結果は年 1 回ですので、その時は意識しますが、その後は忘れがちです。日々の体調管理には自分の中で定点観測を決めればよいと思います。例えば、家から最寄り駅までの移動、いつも通りの時間帯に出ても、同じようにしていても、駅に着く時間が前後することがあると思います。いつもより遅く着いた時は目に見えない疲れが溜まっていると自覚する。その日はいつもより慎重に丁寧に行動しようと心がけることで、ミスを防げるのではないかと思います。

私も週末、いつもと同じ時間帯、同じコースで定点観測していて実感しています。いつもと同じようにしているのに、休憩時にラップタイムを見るとなぜ、こんなに遅い？と感覚と現実とのズレを突き付けられることが多々あります。そんな時は、自己嫌悪に陥るより、今日は調子が悪い日と自覚して、悪い日なりにタイムをまとめてゴールすればいいやと自己肯定するようにしています。

日々生活していると調子のいい日もあれば、悪い日もあります。目に見えない疲れを可視化するために、自分なりの定点観測を探してしましょう。

重 点 施 策

11 月安全重点目標

『現場の火災予防を徹底しよう！』

11 月は空気が乾燥し、暖房器具を使い始める季節です。建設現場では、溶接・溶断や切断作業の火花が、木くずや養生材などに燃え移るおそれがあります。また、現場

事務所や休憩所でも、暖房器具や電気設備の使用に注意が必要です。

火災は作業員の命を脅かすだけでなく、近隣への被害や工事の中断、会社の信用低下にもつながります。「少しの作業だから」「いつも大丈夫だから」という油断をなくし、今月は、火気使用の前後と終業時の確認を徹底しましょう！

【重点実施事項】

①火気使用前に周囲を確認する

作業場所だけでなく、火花が飛散・落下する範囲まで確認し、木くずや紙くず、養生材などの可燃物を撤去しましょう。撤去できないものには不燃性の覆いなどで防護し、消火器を使用しやすい場所に準備してください。また、近くで塗料や溶剤などを使用・保管していないか確認し、他の作業との連絡調整を行いましょう。作業前の打合せでは、火気の使用場所と時間、担当者を全員で確認することが大切です。

②作業中と作業後の火種を見逃さない

作業中は、火花が届く下階や隙間、資材の陰にも注意し、必要な監視体制を整えましょう。作業場所や火花の飛散方向が変わった場合は、防護の範囲も見直してください。作業終了後は、使用場所だけでなく周辺にも煙や焦げ、残り火がないか確認しましょう。片付けや次の作業を急ぐあまり、確認がおろそかにならないよう、担当者が責任を持って実施してください。

③暖房器具・電気設備を点検する

暖房器具の周囲に衣類や紙類などの燃えやすい物を置かず、取扱説明書に従って使用しましょう。休憩所などの整理整頓を行い、器具の周囲に物が増えていないか日々確認してください。電気設備は、配線の傷みやプラグの異常、ほこりの付着などを点検し、電源タップの定格容量を超える使用を防ぎましょう。異常がある器具は使用を中止して報告し、退室時には暖房器具の停止を確実に確認してください。

④終業時の確認と緊急時の備えを行う

火気・電源の確認担当者と点検範囲を明確にし、終業時にはチェック表などを活用して確認漏れを防ぎましょう。現場事務所や休憩所も点検し、結果を責任者へ報告してください。また、消火器の位置、

通報方法、避難経路を全員で共有し、通路や消火器の前に資材を置かないようにしましょう。火災時は周囲への周知と通報・避難を優先し、無理な消火は行わないでください。

「誰かが確認したはず」をなくし、一人ひとりの確実な確認で、火災を起こさない現場をつくりましょう！

“ご安全に！”

土木部工務グループ

◆事務局からのお知らせ◆



■ 令和 8 年度 秋の全国火災予防週間

期 間：11 月 9 日～11 月 15 日

スローガン：『火の確認 いい日を支える いい習慣』



■ 安全衛生協力会・委員会合同パトロールの予定

日 時：令和 8 年 11 月 12 日(木) 13：00～15：30

場 所：R7 桂川横大路下島地区上流堤防強化他工事

協力会：(株)山栄工務店、ナガタ工業(株)

■ 第 62 回京都府建設業労働災害防止大会

日 時：令和 8 年 11 月 18 日(水) 13：00～15：50

場 所：ロームシアター京都サウスホール

特別講演：建災防 安全管理士 東 裕之氏

「建設業における労働災害防止について」

■ 工事完成：ご苦労様でした。



【R7 桂川下植野中島地区下流河道掘削他工事】